



桂川っ子

VOL.40

大分県豊後高田市教育委員会 を訪問して（研修視察報告）

桂川町教育委員会

教育長 穂坂和義

今年、東日本の大震災の影響で全国学力・学習状況調査が中止となりました。しかし、福岡県ではその問題用紙を使って独自に9月に実施することになっています。

ご存じのとおり、福岡県の子どもの平均的な学力は全国平均よりやや下回っており、さらに筑豊地区はこの福岡県の平均をかなり下回っています。そして、肝心の桂川町の子どもたちの学力は筑豊地区の中でも中位といったところです。

学力については、いろいろな見方や考え方がありますが、単に進学のためだけでなく、子どもたちに生きる力をつけ、人生選択の幅を広げていくという面からも、低いより高いにこしたことはありません。本町の子どもたちは、現在小・中学校とも落ち着いた状態にあり、学力向上の好機であると考え、様々な取組を進めているところです。

そんな折、ある教育関係の資料で

大きな成果を上げている大分県豊後高田市の取組を知り、そのノウハウを学ぶべく梅雨空の明けやらぬ7月4日、教育関係者（教育委員、学校長、教育委員会職員）総勢12人で研修視察に行つて参りました。

豊後高田市は、宇佐神宮で有名な宇佐市の隣、国東半島の付け根に位置する人口2万5千人ほどの小さな市です。市内には小学校12校に中学校が6校もありますが、小規模校が多いようです。

大分県における学力をめぐる課題は、県内市町村の格差が大きいことと、県の平均学力が全国下位と低迷していることのようにです。ところが、このような中であつて、数年前まで県内の中でも最下位に近かつた同市の子どもたちの学力は、今では県内トップとなり、学力も全国平均をかなり上回っています。教育のまちづくりを目指す同市では、学校と行政、さらに家庭や地域が連携して、学力向上はもちろん、豊かな心の育成、ボランティア活動の推進、健やかな体の育成に重点を置いた様々な施策を行っていました。以下、その概要をご紹介します。

【学校における実践】

○小・中学校連携推進事業

小学校と中学校間の生活や学習面のギャップを解消するため、小・中学校教員間の授業交流や生徒指導における連携推進会議などを実施。また、各校の校内研究会や行事へ相互に参加し連携を深めている。

○全小・中学校における研究指定と加配教員の活用

市内の小・中学校18校すべてが市か県、国の研究指定・委嘱を受けて取組を進めている。また、市内を5つのブロックに分け、それぞれに学力向上支援教員（県教委認定の優秀教員）を配置し、教員の指導力向上、児童生徒の学力向上に向けて具体策を講じている。

【学びの21世紀塾】

○生き生き土曜塾

土曜日に公民館など市内8ヶ所で国語や算数・数学、英語、そろばん、パソコン、合唱などの講座をボランティアの協力で実施。また、「テレビ寺子屋講座」として中学3年生を対象に、高校入試対策講座や小学校高学年対象の英会話講座を市営のケーブルテレビで放送している。

○わくわく体験活動

週末に地域の各施設で料理や手芸、菜園、宿泊訓練、各種スポーツなどの体験活動を地域のボランティア、市職員・教職員などの協力を得て実施している。

○のびのび放課後活動

放課後を利用して、地域の人や教員員の指導で野球やバレー、ソフト、テニスなどのスポーツで体力づくりを行う。

以上、行政の指導と支援の下に学校と家庭、さらに地域が連携・協力して取組を進めている点は、桂川町も同様ですが、豊後高田市の施策をどこまで取り入れ実践できるかは大きな検討課題となりました。

いずれにせよ、大きな宿題をもたらした研修視察でした。次号から学校や行政、地域の立場から今回の視察で学んだことを分析し、提言や協力依頼をしていきたいと考えておりますのでご一読のほどよろしくお願ひします。

